



奉納した能面を手にする松田さん

下関 龜山八幡宮に能面奉納 防府の松田さん5作目

防府市の能面師、松田龍仁さん(74)が毎年10月に神事の龜山能が行われる下関市の龜山八幡宮に能面「邯鄲」を奉納した。松田さんは2008年から龜山八幡宮に能面を奉納しており、今回が5作目となった。

龜山能は約420年前、豊臣秀吉が朝鮮出兵の際に龜山八幡宮で能を奉納したことに由来し、下関市の無形文化財第1号に指定されている。秀吉が奉納したとされる能面「白式尉」は今も残り、市の有形文化財となっている。

龜山八幡宮では、能の前に白式尉に対して神歌をささげる神事「翁渡式」が行われる。白式尉は能の演目「翁舞」で四つの面の一つとして使われる

が、龜山八幡宮には白式尉以外の黒式尉など3面がなかったことから、松田さんが08年から3年にわたり残り3面を制作し奉納した。これをきっかけに松田さんは現在も能面の奉納を続けているという。

今回奉納した邯鄲は能「邯鄲」の主演(シ

テ)で、思索的な青年の顔つきが特徴。松田さんは「龜山八幡宮に奉納でき、ありがたいと思う。今後も面を制作し奉納したい」と話した。

今年の龜山能は10月24日に開催され、会場では松田さんの能面が披露される。

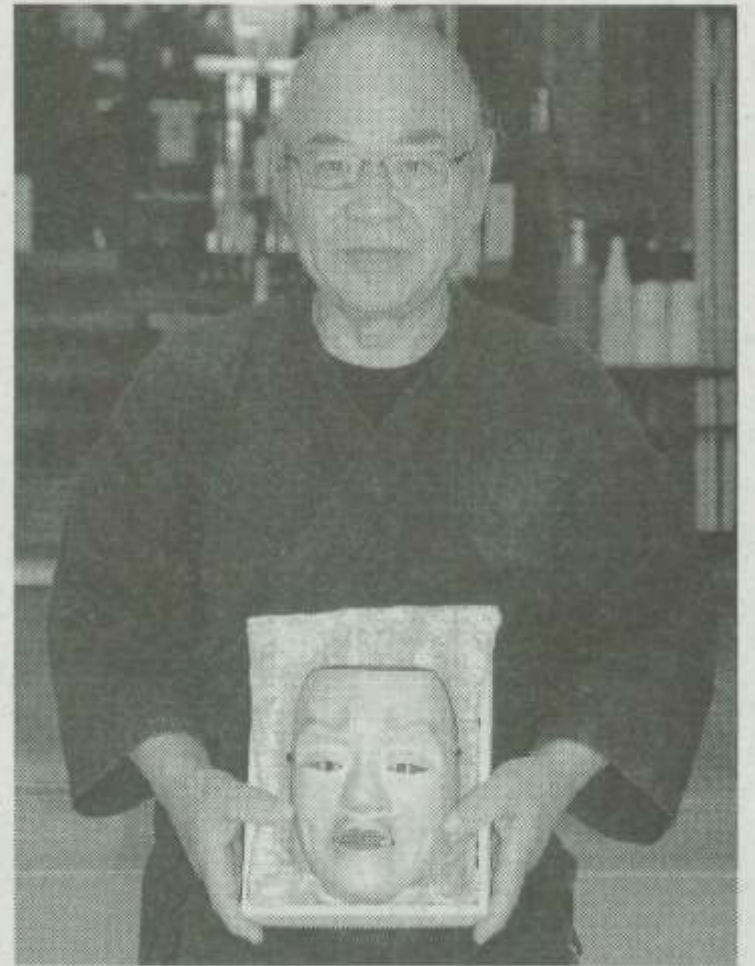
【仲田力行】

毎日新聞 (平成27年9月12日)

6面目、亀山宮に奉納

防府市の能面師、松田龍仁さん(74)が、中之町の亀山八幡宮(竹中恒彦宮司)に能面を奉納した。昨年に続き6面目で、10月24日に同八幡宮で開かれる市無形文化財の神事能「亀山能」に合わせて一般公開される。奉納した面は、思い悩む青年を表した「邯鄲男」。夢枕の故事をテーマにした能の演目「邯鄲」のシテ(主役)のために作られた面で、憂う様子と夢から覚めて晴れ晴れとした表情の二面性を持つのが特徴。岐阜・木曾産の樹齢200年以上のヒノキを材料にして

能面師・松田さん



奉納した能面「邯鄲男」を手にする松田龍仁さん。見る角度によって喜怒哀楽の微妙な表情がうかがえるという＝中之町

「邯鄲男」来月一般公開

松田さんは2007年に同八幡宮で亀山能を初めて見て魅了され、「少しでも力になりたい」と決意。奉納演目の一つ、「翁」に必要な面など5面を08年から昨年までそれぞれ奉納し、今回は「亀山八幡宮にふさわしい雰囲気」の能面として選んだ。同八幡宮で奉納式があり、松田さんは「後世に受け継いでもらえたら」と話した。竹中信彦禰宜は「魂を込めて作っていただいた能面。永代にわたり守りたい」と感謝した。10月24日の亀山能では奉納された全6面を公開する。

彫り上げたという。

▲山口新聞

(平成27年9月16日)

能面「邯鄲男」を奉納 防府の松田さん

防府市の能面師、松田龍仁さん(74)が11日、下関市中之町の亀山八幡宮に、能面「邯鄲男」を奉納した。

同八幡宮では毎年10月、豊臣秀吉が能を奉納したことに由来する「亀山能」が披露されており、市



◀ 邯鄲男の能面を手にする松田さん

の無形文化財に指定されている。松田さんは、2007年に亀山能の神事「翁渡式」を見て以来、「黒式尉」「父尉」「延命冠者」「小面」の面を納めてきた。邯鄲男は、気品のある若い男の面で、憂いを含んだ顔つきが特徴という。本殿で行われた奉納式で、神職から感謝状を受け取った松田さんは、「今後もできる限り納めていきたい」と話した。禰宜の竹中信彦さん(40)は「精魂込めて作られた素晴らしい面を永代、守り伝えたい」と感謝していた。邯鄲男の面は、亀山能が行われる10月24日に一般公開するとう。

読売新聞

(平成27年9月16日)